

令和元年度バス事業における評価結果について

評価指標 及び目標値	平成30年度実績 (調査結果)	令和元年度実績 (調査結果)	評価結果・評価基準 からの方向性	備考(見直し策の具 体例)
1便あたりの平均 利用者数 (基本路線9人以上、乗継支線2人以上)	1便あたり平均利用者数 基本路線9.1人 乗継支線1.4人	1便あたり平均利用者数 基本路線8.9人 乗継支線1.6人	○未達成 コロナウイルスの影響から、基本路線の通学通勤利用者数が減少した。支線の利用者数は前年度から増加している。	しばらくはコロナウイルスの影響があると思われるが、引き続き利用拡大に向けた検討を推進する。
収支率 (基本路線30%以上)	基本路線収支率 16.9% 但し、無料措置が無ければ20.7%	基本路線収支率 16.5% 但し、無料措置が無ければ20.0%	○未達成 乗車数の減少に伴い収支率も減少している。引き続き改善策を検討	利用者の拡大を図るとともに経費削減に取り組む。
満足度 (1年目50%以上、2年目以降60%以上) 「満足」及び「やや満足」の合計値の割合をいう。	バス利用者意識調査結果(平成30年7月実施)による。 ○運行ダイヤ 57.1% ○バスルート 78.0% ○バス運賃 90.5% ○運転士マナー 88.1%	バス利用者意識調査結果(令和2年3月実施)による。 ○運行ダイヤ 48.6% ○バスルート 77.3% ○バス運賃 92.9% ○運転士マナー 90.9%	○一部未達成 運行ダイヤ及びバスルートは前回の調査結果を下回ったが、運賃及び運転士マナーでは前年度を上回っている。引き続き満足度の向上に努める。	バスが住民生活に定着しつつある中、引き続き、利用者の意見をできる限り反映し、満足度の向上を図る。
利便性 (1年目50%以上、2年目以降60%以上) 外出機会が「増加」及び「やや増加」した住民の割合をいう。	利用者意識調査におけるバス利用頻度では、週3・4回が増加し、月単位での利用者数も増加している。また、往復バスを利用する割合は62.5%から76.2%と増加している。	【利用者意識調査】 月単位の利用者が減少し、週単位の利用者数が増加。利用頻度は、週5回利用者が増加。また、往復バスを利用する割合は片道利用が増加している。 【住民アンケート】 バスを月1回以上利用したことがある方のうち、外出機会が増加及びやや増加した割合は、約50%で、半数以上において、また、月単位での利用者数も増加している。	○未達成 利便性向上の増減比較をする客観的数値がないことから、未達成とする。 利用者意識調査における往復利用や利用回数の項目では、前年度より増加しているが、利便性の向上に直結しているとは言い難い。運行ダイヤの見直しなど、満足度向上策の検討及び実施に努める。	利便性及び満足度向上策を持続的に実施する。